

同居のために部屋を増築

玄関、リビング近くに設置

安心して暮らしたい

Ｈさん（90）の状況
一戸建てに娘夫婦と孫の4人暮らし。以前
狭心症の発作があった。椎間板ヘルニアと軽
度の認知症を患う。要介護1。

夫に先立たれ1人暮らしとなったHさん（90）。介護が必要になり娘夫婦と孫との同居が始まったものの、住宅は4人が暮らすには狭かった。部屋の増築で、気持ちにもゆとりが生まれたよう。（栄野川里奈子）

Ｈさんは妻41年のＲＣ造の平屋。間取りは2LDK。Ｈさんは食事やお風呂、移動など日常的動作は自立しているが、家事は難しくなっている。リビングからＨさんの部屋（写真真上）を見る

いた。去年から介護のため、娘のMさん夫婦と孫との同居生活が始まった。「もともと両親が2人で暮らしていたのですが、去秋父が他界して母が1人で、以前から兄弟で食事を作って持っていたのですが1人で何かついていただけだった」とMさん、同居を始めた。

「トイレに近いリビングをHさんの寝室に、2部屋を娘夫婦と孫の寝室に使っていたが部屋を閉め切ることが多かった。とにかく狭い家全体の雰囲気も暗くて、毎日ストレスを感じてしまっ、やっぱり家族がくつろぐ部屋も必要」と、(株)ラムハウジングにリフォームを依頼。費用は退職金を使った。

リフォームでは、Hさんの部屋と浴室、トイレ、玄関を2×4の木造で増築。既存の住宅と増築部分を廊下でつなぐ。将来的には車いすも使えるよう、増築部分は段差をなくし、ドアは開け閉めしやすい引き戸としている。(株)ラムハウジングの川上晃奈さんは「Hさんの寝室は南東に開いて、人が出入りする玄関と家族が集うリビングの近くに配置しました。洗面室とトイレに、木の床や消臭効果のある漆喰など、自然素材を使っています」と説明する。毎月第一・三金曜日に掲載



部屋づくつくろくHさん、部屋には南と東に窓があり、程良い光が入る

自然素材を用いたトイレ、カビも湿気も気にならないHさん

空いていた敷地（上写真）に木造で増築した（右写真）。直はMさんの夫の手づくり

改装前、2LDKで大人が4人住むには狭かった

改装後、それぞれの部屋とみんなで使う居間を確保できるように